

2010年度 卒業研究 梗概一

論 題 住環境の特徴の捉え方
—学生の子どもの遊び環境に対する視点—

学籍番号 20718022

氏名 辰口 礼奈

指導者 薬袋 奈美子 専任教師

1. はじめに

1-1 研究目的と背景

地域の空間を市民参加で検討する機会は増えているが、空間を見る力が十分でないままに議論を重ねることはいい空間づくりにつながらない。本研究ではこれから地域社会の一員として参加する可能性のある学生が普段自分の生活とは直接関係しない子どもの遊び環境についてどれだけ空間を読み取る視点を持つのか明らかにする。

1-2 研究方法

あそび環境の研究をしている仙田氏の文献¹や論文をもとに概要をまとめた後、あそび環境に積極的に出向きある目的を持ってアプローチする学生の事例として、子どもを都内各地のあそび環境へ遠足に連れて行く学生団体「駒場子ども会」（以下 KAC）の学生39名と東京都に住む一般学生35名を対象にあそび環境の利用頻度や環境に対する意識に関するアンケート調査を実施した。アンケート内の質問項目のうち、KAC 活動場所を分類し抽出した「公園」「広場」「児童室内施設（以下施設）」を子どものあそび環境と位置づけた。

2. 調査結果

2-1 「公園」「広場」「施設」の利用頻度

『「公園」「広場」「施設」のここ1年間の利用頻度を教えてください』という選択回答形式の間¹に対し「日常的に利用しない」と答えた人は KAC 学生と一般学生共に約5割いた。「広場」「施設」も同様に KAC 学生は約7割、一般学生も約8割の人が利用しないと答え、KAC に所属している・していないに関係なく学生は日常的に各空間を利用しない傾向にあることがわかった。

2-2 「公園」「広場」「施設」に対する意識

『「公園」「広場」「施設」を利用するとき意識することは何ですか』という自由記述回答形式の間に対する回答の言葉数を意識項目数として表したものを表1に示す。KAC 学生と一般学生を比べると KAC 学生が圧倒的に多いことがわかった。

表1 意識項目数

	公園	広場	施設	合計
KAC	121	93	111	325
一般	74	68	74	216

分析で言葉を「モノ」*²「ヒト」*³「行為」*⁴「空間」*⁵「その他」*⁶に分類しあてはまる言葉数を表したものを図1に示す。公園では KAC 学生はモノ・行為に対する意識が高いのに対し一般学生はヒト・空間に対する意識が高い。広場では KAC 学生はモノ・ヒト・行為に対する意識が高いのに対し一般学生は空間に対する意識が高い。施設では KAC 学生は行為に対する意識が高いのに対し、一般学生は空間に対する意識が高いことがわかった。

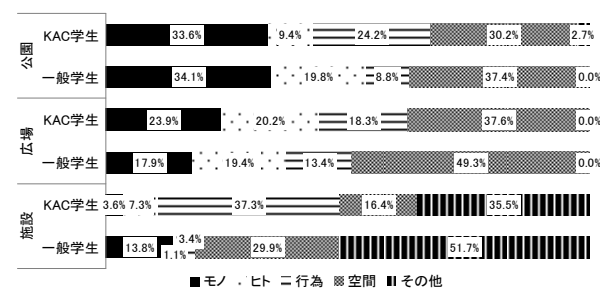


図1 KAC 学生と一般学生の意識項目種類数

3. 空間の捉え方

意識項目をさらに細かく分類し空間の捉え方に関する項目をまとめたものを表2に示す。表2からわかるように KAC 学生は「地面」項目「広がり」項目「日照」項目の全てにおいて言葉の種類が多く言葉の数も多いことから、空間を具体的にイメージできていることがわかる。一方一般学生は印象・気分に関わる言葉が多く挙がり言葉の種類も多いことから、空間を感覚で捉えており、抽象的にイメージしていることがわかる。この結果の要因として KAC 学生は普段から活動で利用し慣れているのに対し、一般学生は公園や広場を利用する機会が少ないことが考えられる。また一般学生の公園における「印象・気分」項目の言葉の内容を見てみると「開放的」「リラックス」「のんびり」などの言葉が多く、癒しの空間として捉えていることがわかる。比べて KAC 学生は「楽しい」「おもしろい」という言葉が多いのは、場所の選択条件として子どもに楽しんでもらうことを意識しているからだと推測できる。

4. 安全性の捉え方

安全性の捉え方に関する項目を表3に示す。公園における KAC 学生と一般学生の意識の違いに着

目すると KAC 学生の「安全性」項目や「車両」項目の言葉の数が多いのに対し一般学生は少なく、一方で「特定人物」項目の言葉では KAC 学生は種類も数も少ないのに対し、一般学生は言葉の種類も数も多く挙げられていることがわかる。これは、KAC 学生は子どもの保護的立場から子どもの安全を常に意識し公園を選び利用していることと集団で利用するため特定人物に対しての警戒心が低いのに対し、一般学生にとって公園は一人で利用することが多く最近の事件などから特定人物に対する警戒心を持って利用していることが推測できる。また公園における「自然・動物」項目においては一般学生の挙げた言葉を見てみると「自然」「緑」などの言葉を挙げているのに対し KAC 学生はあまり言葉を挙げていない。一方広場においては一般学生の言葉が少なくなるのに対して KAC 学生は「木の根」「原っぱ」など足元の自然に関する言葉が挙げられている。これは、一般学生は自然をおおまかに景色として捉えているのに対し、KAC 学生は自然を一種の危険要素として捉え警戒していることが推測できる。

5. 空間で可能な行為の捉え方

空間で可能な行為の捉え方に関する項目を表4に示す。場所に限らず KAC 学生が空間で可能な行為を多く意識しているのに対し一般学生は「休憩」「座る」「歩く」などの言葉が多いのは実際にそ

の場でする行為の違いによるものだと考えられる。

6. 空間で利用可能なものの捉え方

空間で利用可能なものの捉え方に関する項目を表5に示す。場所に限らず特に顕著なのは KAC 学生の「トイレ」や「遊具」に関する言葉の多さである。これは一般学生に比べて KAC 学生は公園や広場などの敷地内で過ごす時間が長いことが要因として考えられる。一方公園において一般学生の「ベンチ」に関する言葉が多いのは彼らの公園などに訪れる目的の1つに癒しがあることが推測できる。

7. まとめ

この調査によって一般学生に比べ KAC 学生の空間に対する視点の多さがあられ、ただ利用し通り過ぎていた学生よりも子どもを遊ばせるといった目的を持って場所を選択し利用している KAC 学生は、空間を意識した項目や安全性を意識した項目の「地面」「日照」「自然」といった言葉に見られるようにより具体的な視点を持つことがわかった。今回安全性に関する言葉が多かったのも子どもを預かる責任を持っているからだと考えられる。このような具体的且つ多様な視点は今後よりよいまちづくりや子どものあそび環境づくりにいち市民として参加するにあたり必要になるのではないかと考える。

表2 空間を意識した項目

分類	意識項目	公園		広場		施設	
		KAC	一般	KAC	一般	KAC	一般
地面	地面	1		2	2		
	足場	2		2			
	足元			2			
	平ら			6	1		
	ぬかるみ	1		2			
広がり	広場	5					
	範囲	2		2			
	規模						1
	スペース			3			
	広さ	1	2	6	13	1	1
	死角	1	2				
	見通し		1	1	1		
	見晴らし			1	1		
日照	日陰	3		5			
	雨	3					
	天候	2		1			
	日当たり		2	1	2		
印象・気分	開放的		2				
	のんびり		2				1
	ゆっくり		2				
	リラックス		1				
	静か				1	1	2
	楽しい	3	1	2		6	6
	快適						1
	面白い	1					1
	飽きる	1				3	
	興味					2	5
設備	明るい		8		1		
	雰囲気	1	1			1	
	おしゃやれ				1		
	活気						1

表3 安全性を意識した項目

分類	意識項目	公園		広場		施設	
		KAC	一般	KAC	一般	KAC	一般
安全性	危険	9		1	1	2	
	危ない	3	5	3			
	危害		1				
	安全	4	1	1	1		1
	治安		1		2		
	浮浪者	1					
	変な人		4		1		
特定人物	変な人		1	1			
	ぶっス		2				
	不審者		3				
	喫煙者				1		
車両	車	2		2	1		
	バス	1					
自然・動物	自然		3				
	緑		1		1		
	木		1	1			
	植物		2				
	木の根			2			
	石			3			
	原っぱ			1			
	芝生				1		
	虫	1					
	犬		1				

表5 空間で利用可能なモノを意識した項目

分類	意識項目	公園		広場		施設	
		KAC	一般	KAC	一般	KAC	一般
設備	設備		1		2		1
	トイレ	24		11		2	
	水道	1					
	ベンチ		14		1		
	街灯		5		1		
	スポーツ				1		
遊具	ボール	4		2			
	遊具	16	1	2			

表4 空間で可能な行為を意識した項目

分類	意識項目	公園		広場		施設	
		KAC	一般	KAC	一般	KAC	一般
モノを伴わない行為	遊ぶ	5		4	1	4	1
	ゲーム	1		1		1	
	歩く	1	2				
	走る	2				1	
	動く						1
	騒ぐ			3	4	1	
	集合	4		3			
	休憩	3	2	1	1	1	
	座る		2	1	2		
	長時間*				1		
	場所確保**			1			
	飲食	3	1			7	
	手を洗う	1				1	
	体験する					11	1
	触れる					1	
モノを伴う行為	乗る					1	
	見学					2	
	見て回る					4	
	グループ**					3	
	迷う					1	
	見失う	3				1	
	怪我	5		2			
	つまずく			1			
	遊具使用	3	1	1			
	ボール使用	4		2			
シート**	1						
荷物**						1	

*1長時間いる *4シートを広げる
 *2場所を確保する *5荷物を置く
 *3グループ行動する

【アンケート URL】

第1回調査: <http://bit.ly/hfItsP>

第2回調査: <http://bit.ly/gplH7y>

【参考文献】

1) 仙田満: 子どものあそび環境 筑摩書房 1984年

【注釈】

1) 「日常的に利用しない」「週1回程度利用する」「月1回程度利用する」「年1回程度利用する」の中から選択回答する間。KAC 学生に関しては「KAC 活動以外日常的に」と注釈をつけた

2) 空間にある「トイレ」「遊具」などを含む言葉を「モノ」として分類した
 3) 空間にいる「他の人」や「危ない人」など人を含む言葉を「ヒト」として分類した
 4) 空間で可能な「走る」「歩く」などの行為を含む言葉を「行為」として分類した

5) 空間をあらわす「広さ」「地面」などの言葉を「空間」として分類した

6) 「モノ」「ヒト」「行為」「空間」に該当しない「時間」「お金」などの項目を「その他」に分類した